

老いに向き合う教団宗教を考える、補足説明

井出 存 祐

(1) 「既成教団の姿」

二〇〇七年に超高齢化社会となった。(六五才以上の人が二一%を超えた社会) 大きな社会問題、深刻な問題とされる。しかし、宗教教団から見てこうした現象は宗教性を高める契機でもある。

信仰の継承問題は伝統宗教ばかりでなく、創設期から長い年月を経た新宗教にも直面している。

高齢化と信仰率ないし伝統宗教への再接近の相関は宗教意識調査の定説であるが、老い行く人の宗教的経験について学問的な調査は進んでいない。

○伝統教団は巨大化し過ぎた。日蓮宗は四年に一度宗勢調査を行う。

二〇一二年の調査で年齢別にみると、六〇才台三〇・二%、六〇、七〇、八〇才代の合算で五〇・九% (前回四三・六%、前々回四一・二%)

(2) 「信徒の減少」

寺院の後継者は、団塊世代(六六〜六八才)は両親が戦争体験者あるいは戦中戦後世代で生きてきた。

この世代は僧侶として兼職、兼業しても貧乏寺を継承した。地域の人々も救いの手を差し伸べた。「道心の中の餌

食あり、餌食の中に道心なし」という気概があった。しかし、今は地域の繋がりが少なくなり、次の団塊世代（三〇～五〇代）の信仰相続、布教伝道の自覚が薄い。信徒は住職の魅力、人間力の魅力こそ便りにするところで、教団如何によらず「人間力」にたよるところであろう。

○檀家制度の崩壊、個人の宗教への移行。墓の継承者問題に至急対処しなければなりません。

○都市寺院から地方寺院への移行の傾向。

（例一） 田舎寺が葬儀を頼まれた。菩提寺はどこか「東京の××寺です」という。それならば「法号を付けて貰いなさい」と指示。電話したらFAXで一〇〇万円の請求があった。

（例二） 東京在住者が都内の霊園で、墓地を求めるより「高速道路で走りインター近くの田舎寺を探す」宗派教団の違いは関係ない。

（例三） 「限界集落」ともいえるべき過疎の村の寺院だ。法要のたびに五〇代の住職はマイクロを運転して近くの村を回り高齢者の信徒を迎えに行く。路線バスはない老人たちは山道を歩いて寺に集まる体力はない。「葬式の度に檀家の一つ減る」という。老人が亡くなると子供や孫は郷里に寄り付かなくなる。（中外日報社説平成十九年）

（3）「実際に死に直面したとき誰が心の支えになるか」

（経済産業省の調査）

葬儀社が一番の理由。現実の問題で要するに行政機関への手続だとか、具体的に解らないことに相談に乗ってくれる、全部やってくれる。

（例） 葬儀社のチラシ。「遺留分についての具体例」（行政書士事務所の解説）

(例) 遺品整理プラン。料金表を載せている。

宗教者が支えになっていないことについて、各教団にとっての課題である。(第一生命経済研究所調べ)

「実際に「死」に直面したとき」とは？

※お迎え現象(アンケート結果)

「これについては、五二・九%の人が既に亡くなった家族や知り合い。」と答えている。そのような体験の有無については……

★そういうことがあった。一五五度 四二・三%

★なかった。一二八度 三五・〇%

★よくわからない 五七度 一五・六%

★無回答 二六度 七・一%

故人が見えた、聞こえた、感じられたもの。

①既に亡くなった家族や知り合い。八二 五二・九%

②その他の人物 五三 三四・二%

③お花畑 一二 七・七%

④仏 八 五・二%

(4) 「教団宗教の衰退・教義・葬儀・法要中心への疑問」

立法……教育制度の見直しを考えるべきです。既に師弟制度は崩壊している。

行政……差別戒名や差別文字の指導を徹底すべきです。時代が変化していて、この問題は風化しているように見え

るが、新しい差別にも取り組んでほしい。

司法……教師の倫理、教団の倫理、姿勢の確立を研究すべきです。

宗制で拘束できない事項（教師の課題）をどう規律するか研究すべきです。

人材育成に対する疑問・「高僧の意見が若い僧に浸透しない、同時に若い僧の意見を聞く耳を持たない現状がある。」
「法器育成と謳っておきながら、自からの面子、安定を求め改革の施術を行わない指導者の姿勢に疑問がある」（以上が若い僧の意見です）

「宗定法要式」・立派な基準です。しかし、これに拘りすぎている面がある。同時に慣習に従い「無視」する高僧がいる。儀式は大切な宗教法要ですが拘りすぎると教団の魅力を失う。

「宗教者として、臨床（臨終）説法はなぜできないか」

医療機関、福祉施設、介護施設等の公共空間に入る努力を教団として研究すべきであろう。（真宗本願寺派の施策を参考にすべき）

(5) 教団改革と活性化の提唱

教団が組織されたことこそ重要なことです。

宗教は信仰心だけではダメ。学問だけでもダメ。教義教学が備わった三位一体こそ大切。

「宗会議員は沢山いるが、教団を真剣に考えているか疑問」これはどの既成教団も同じように思う。不活動法人（無住寺院）の活性化を図らない。手を付ける気配もない。しかし、議員定数確保の基礎として数に数えている。何十年も同じ状態です。

(6) **宗教への期待と宗教者への期待の温度差?** (現代宗教誌二〇一四 P三四参照)

宗教への期待が二〇〇八年(三九・八%)から、二〇一二年には(五四・八%)に上がっている。

上がった理由をいろいろな専門家が分析している。例として大震災で「死」が身近になった。との見方がある。

「超高齢化社会に宗教は応答できるか」 p二八

「仏教もキリスト教も経験がないことである。超高齢化に宗教は本当に応えられるだろうか」

(A氏談) 「そもそもどういう問いのところから「宗教」というものが生まれてきたか、という原点に帰るところから、反って宗派とか諸宗教の違いを超えて実はその問いの部分をもっと共有できるといえるか、社会の中で気軽に話し合えるような雰囲気を作ればよい。」

(7) **教団の慣習は老齢化、地方再生が必要である。**

都市寺院と農山村の地方寺院の格差は大変です。(宗勢調査のまとめP一七)で明らかのように教師寺院婦人の悩みを再確認してみよう。

① 教師の悩み

経済的不安定…二八・三% 特になし…二四・五% 健康問題…二二・一% 後継者問題…一六・三%

② 寺院婦人の悩み

経済的不安定…二五・四% 特になし…二六・六% 自分の時間がない…二二・九%

これだけの資料を見ても都市部と地方の格差が推測できる。

地方再生は何といっても経済力の補償であろう。

信仰心の落ち込んでいる若い僧侶に、将来の教団拡張を託するにも生活保障制度の必要性を考えるべきではないか。

最後に・まとめ

「人口減少時代の宗門・宗勢にみる日蓮宗の現状と課題」

この冊子をまとめられた、宗勢調査プロジェクトチームのみなさん並びに現宗関係者のご努力に敬意を表します。

主任高佐師が最後に「今後望まれる寺院の姿であり、そこに寺院の可能性があるということは、何はともあれ明らかではないか、こうした報告は「やる気」を削ぐ方向に影響しかねない。」と表現していますが、わたしは、この報告書は教団全体のCTスキャンであり、全員がよく観察して考え、健康状況をみて展望を描くべきだと思います。

老いに向き合う 教団宗教を考える

井出 存祐
群馬県真相寺院首
臨床宗教師

(1) 既成教団の姿

- ・高齢者との関わりを一番強く持っている、しかし教団所属の教師は本当に高齢者に関わっているか。
- ・高齢者の悩み……
- ・死後の始末、墓、相続等
- ・巨大化した教団は檀信徒のニーズにできていない。

(2) 信徒の減少

- ・高齢化社会と世代交代。宗教への無関心。
- ・家の宗教から、個人の宗教へ。
- ・檀家制度の崩壊。1816年以来199年
- ・住職の魅力、人間力こそ教団の再生に繋がる。

(3) 実際に死に直面したとき 誰が心の支えになるか

- ・葬儀社、次に配偶者、子供が一番。医師は4番、職場の仲間や利害関係者、最も低いのが宗教者。
- ・「宗教」が心の支えになっている人は多いが宗教者が支えになっているひとは少ない。

(4) **教団宗教の衰退
教義・葬儀・法要中心への疑問**

- ・立法・行政・司法分野の改革の必要性。
- ・人材育成に対する疑問。若い教師の意見をどう取り上げていくか。
- ・宗定法要式があっても、無視する。また、宗定にこだわりすぎる。自分勝手の高僧は若い僧侶の意見を無視している。
- ・宗教者として、在宅、医療機関、介護施設に行って臨床（臨終）説法はなぜできないか。

(5) **教団改革と活性化の提唱**

- ・教師の現状・団塊の世代は親の跡継ぎで寺院を何とか継いだ。しかし、つぎの世代は教団や布教の姿勢が薄い。
- ・教団として・布教伝道の方針が弱い、同時に教団所属教師に共鳴されていない。
- ・宗会議員は沢山いるが、教団を真剣に考えているか疑問。既成教団はどれも同じで不活動法人も活性化しないで議員定数確保としている。

(6) **宗教への期待と宗教者への
期待の温度差？**

- ・2008年度は39.8%の人が「宗教」がこころの支えになるという

2012年度は54.8%に上がっている。

何故か、東日本大震災で「死」が身近になった。

死や宗教のことを考えという人が多くなった。

(日本ホスピス緩和協会) 資料参照。

(7) **教団の慣習は高齢化、
地方再生が必要である**

- ・大変重要なことだが、所属教師が教団法制を知らない。
- ・教育制度の問題であって、個人の責任はない。
- ・題目教団であるが、新宗教の「題目」と「どう違うか」明確にすべきだ。
- ・地方創生と若い教師の生活を教団の責任で活性化すべき。